

第3回豊橋市教育課題検討会議 議事録（要旨）

平成26年1月16日（木）14：30～

於：豊橋市役所 東121会議室

- 1 出席者 委員 稲田 充男、白井 正康、岡本 賀生、市川 英輝、堀米 幸子
大久保 貴子、羽柴 留美、鈴木 恵美子 ※敬称略
- 事務局 加藤 喜康（教育政策課長）、宮崎 正道（学校教育課長）、
田中 正己（教育政策課主幹）、山本 誠二（教育政策課課長補佐）
山田 浩一（教育政策課指導主事）、酒井 憲一（教育政策課指導主事）
上野 喜一郎（学校教育課指導主事）、柳瀬 敏紹（教育政策課主査）
大橋 史明（教育政策課主事）

2 議 事

（1）事務局あいさつ（加藤 教育政策課長）

（2）幼保小中一貫教育実践発表会（阿久比町）視察報告（教育政策課 山田指導主事より説明）

《視察参加委員の主な感想》

- ・展示物や閲覧ファイルなど、理解しやすい内容で充実していた。
- ・リーフレットには、学校と家庭のそれぞれの教育的役割が明確に示され、参考になった。
- ・小学生と中学生の兄弟がいる家庭の現実的な悩みをもとにした取組だった。兄弟が同じ教育目標で同じ教育を受けている素晴らしさを感じるとともに、保護者として安心感もあると思う。
- ・幼保の園児と小学生の合同授業は珍しい取組。小1プロブレムの解消につながる。
- ・15歳の生徒像を決めてから、幼保、小、中が同じ教育を進めていることが特色。
- ・学力テストの結果をふまえた学習の手引きのようなものがあるとよい。
- ・小学校で問題解決学習をしていますが、中学校では受験対策の授業が多いので、その違いへの対応が難しい。
- ・4小1中という町の規模だからできるという面もある。ただ町としての統一感がある。
- ・教員の負担は大きいと思う。打ち合わせや会議等、エネルギーが必要。
- ・連携はできているが、カリキュラムは今後の課題。一貫なのか統一なのか。
- ・大原学院の中学3年生の卒論の例から、小中の学びの連続性が必要。
- ・成果としては地域を巻き込む一体感であるが、数字的なものはこれから検証されるであろう。

（3）本市の教育の現状と課題（加藤 教育政策課長より説明）

《委員の意見》

- ・データが豊富である。今後は「強み」（優れている部分）のデータも必要。豊富なデータから課題が見えてくる。
- ・同じ教育目標、同じ学校文化、同じカリキュラム、同じ学習方法が小中一貫と考える。市内の施設併設型は前芝のみで、他は分離型。連携、一貫の定義付けは無理しなくても、本市の考えでやればよいのでは。豊橋の一貫教育の定義付けを模索したい。
- ・「学びの連続性」の観点から、学力に結びつく取組でないといけない。

- ・豊橋の特色として、外国人児童生徒のデータがほしい。数字にどう影響しているか分析した方がよい。

(4) 小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理【概要】(加藤 教育政策課長より説明)

(5) 小中貫教育に関する他都市の状況 (加藤 教育政策課長より説明)

《委員の意見》

- ・私立中学校への進学の出止めという目的は、全国的に多い。
- ・健康や体力のデータもあるとよい。

(6) 本市における小中連携に関する取組の状況 (加藤 教育政策課長より説明)

(6) 「教育課題検討会議」今後のスケジュール (加藤 教育政策課長より説明)

《委員の意見》

- ・中学校単位の取り組みになるがそれでよいかどうかの検討が必要。
- ・京都の大原学院は廃校予定から小中一貫校にしたが、学校だけでなく地域の居場所としての役割もある。豊橋としては「地域ぐるみの教育システム」とどう整合性を持たせるか検討が必要。

(7) 事務局より (諸連絡)

- ・中間報告に向けて、メール等で意見をいただきたい。
- ・状況によっては、4月に会議を増やして中間報告とすることもある。
- ・次回は3月11日(火) 14:30 開催